

市町村指定文化取材票 <<表>>

取材日	2023年	4月	12日	(記入者) 大谷已弥子	
取材参加者	秋山	大谷	神野	東辻	
取材対象先	檀原市：国源寺の木造不空羂索観音立像				

所在地	檀原市大久保町405番地				
所有者(取材対応者)名	国源寺(大久保町自治会長 *** 氏)		連絡先 ***		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：檀原市魅力創造部文化財保存活用課				
市町村指定文化財	彫刻	1 軀	木造不空羂索観音立像 2020(令和2)年3月27日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	台座に永禄六年仏師「源次」の作と墨書きが有り、市内の室町彫刻の基準作の一つとして評価され、保存状態も大変良い。				
文化財の状況					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	火災感知器、火災報知器、消火器ともに設置されており、定期点検も実施されている。警備会社にも加入されている。			寺は施錠もされ、出来る限りの対策を取っておられると思う。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	数年前に白アリ対策の工事をされたとのこと。檀原神宮の森が近いため、小動物の出没は多いそうだが、建物の修理を重ねられているので、被害は無い。			十分な補修、対策がされているので、問題無いと思う。	
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	現在の国源寺の檀家は19軒。観音堂に安置されている「木造聖徳太子立像」が昭和50年に市文化財第1号に指定され、昭和53に県指定文化財に昇格。令和2年には「木造不空羂索観音立像」も市指定文化財となり、地元自治会等で大変喜ばれ、保存活用に尽力されている様子がよく分かる。しかし、地元住民からは、文化財指定されて公に発表することで起きる影響を危惧される声も聞かれるとのこと。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
建物や庭などもきれいに修復整備され、防火防犯にも努めていて、今は何も問題はないと思う。自治会の方々に古文書を解読や、市内の文化財の案内書等も作成され、文化財への並々ならぬ熱意を感じる。この熱意が次世代に受け継がれることを切に望む。					

市町村指定文化財取材票<<裏>>

取材日	2023年	4月	12日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	神野	東辻	
取材対象先	檀原市：国源寺の木造不空羂索観音立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名：木造不空羂索観音立像

国源寺観音堂	木造不空羂索観音立像 (安置状態全体)
	

不空羂索観音立像 (右は壁にかけられた写真)	当地に中世まであった大窪寺の礎石
	

文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域 (廃寺など) の歴史や特徴等
<p>国源寺縁起によると、播州書写山の性空上人により作られ、多武峰の僧賀上人から国守、藤原国光の手に渡り、国源寺に伝わったと言う。ヒノキ材の寄木造りで、像高95.2cm。台座の裏に「宿院仏師」の棟梁だった「源次」作の墨書があり、室町時代後期の「永禄六年」(1563年)とも記されている。当初は素地のままで、後世に金箔が貼られたと推測される。令和2年の指定時に2年かけて精密な調査が行われた。</p>	<p>当地は、古文献から、飛鳥時代に創建され鎌倉時代末期頃まで存続していたと確認される、大窪寺の跡地である。国源寺は、神武天皇の神託により創建されたと伝わり、元は畝傍山麓の神武天皇陵兆域の一部にあったのを、明治初年までに現在地に移された。観音堂には、本尊の木造不空羂索観音立像と並び、国内最古の木造聖徳太子立像(二歳像、県指定)が安置されている。</p>